

書懷（しよかい）
（篠原国幹（しのはらくにもと））

雨あめ有あり 烟けむり有あり 又また雲くも有あり

四し百ひゃく 余よ州しゅう 乱みだれて 紛ふん々ぶん

腰よう間かんの 秋しゅう水すい 今いま方まさに 試こころみん

妖よう邪じゃを 掃そ了りして 国こ君っくんに 謁えつせん

有雨有烟又有雲 四百餘州亂紛紛

腰閒秋水今方試 掃了妖邪謁國君

解説 明治十年、西郷隆盛を首領として起こされた西南戦争勃発直後の作であろう。

語釈 ※四百余州＝中国全土を言うが、ここでは日本の全土。

※紛紛：いり乱れて散ること。※腰閒＝腰にさした。※秋水＝研ぎ澄ました刀。※妖邪＝征韓論を庄殺した岩倉具視、大久保利通、木戸孝允等をさす。※掃了＝追い払ってしまうこと。※謁国君＝国君とは天皇のこと。天皇に拝謁する。

通釈 雨が降り、霞もたちこめ、また、雲も湧くがごとく、諸方で反政府の戦いが起きて、日本全土も今や乱れて收拾がつかなくなっている。いまこそ、日本刀のように鍛えあげられた我が精兵を率い、東上して君側の妖邪を取り除き、天皇に拝謁して、われらの赤心を知っていただくのだ。